



## 仕事と向き合い続ける力

校長 井之上 良一

昨年10月に公表された厚生労働省の『職業安定局業務統計』によれば、平成29年に卒業した新規就職者のうち、3年以内に離職した者の割合は、大学卒で32.8%、高校卒で39.5%という結果でした。

見方にもよると思われますが、わずか3年間のうちに、3人に1人以上が離職を経験していると考え、これはかなり高い数字だと思えます。もちろん離職そのものに対して一概に否定的な見方をすることはできません。離職によって適職を得、自己を実現している人がたくさんいることも事実だからです。しかし、周知のとおり離職後の再就職がうまくいかず、「フリーター」や「ニート」を選択する若者も少なくない現状を考えると、憂慮すべき状況にあることも確かです。

そもそも若者が離職する理由や背景はどうなっているのでしょうか。

ある人材派遣会社が新卒入社3年以内に離職をした20代を対象に実施した調査（平成30年）によると、離職理由の主なものは右のとおりでした。

### 〈離職の主な理由〉

- ① 自身の希望と仕事内容のミスマッチ（37.9%）
- ② 待遇や福利厚生に対する不満（33%）
- ③ キャリア形成が望めないため（31.5%）
- ④ 長時間労働のため（31.2%）
- ⑤ 上司や同僚との人間関係に関するストレス



一方、少し前の著作物になりますが、『国民生活白書』（厚生労働省 平成18年版）は、若者の離職率の高まりに関して次のような指摘をしています。

### 〈若者の離職が高まってきている背景〉

- ① 厳しい労働環境に耐えかねた結果、若者が新たに適職を探し始めている。
- ② 景気が低迷する中で、思うような就職ができなかった若者が希望どおりの仕事に就くために離職している。（景気悪化に伴う不本意な就職が増加したことが背景にある。）

以上のことから、若者の離職が高い理由を断定的に論じることは難しく、若者自身の問題に加えて、社会的な要因、企業側の問題などが複合的に絡んでいると理解することが妥当だと思います。

では、親や学校はこの問題をどのように受けとめ、子どもたちの教育にどう生かしていけばよいのでしょうか。

まず第一に、現実社会とは市場の原理が働く、厳しい競争にさらされるところであると認識する必要があると思います。そのため、子どもたちが他者と切磋琢磨しながら一定の

役割を果たしていくためには、相応の学力（基礎的な学力にとどまらず、**思考力・判断力・表現力を発揮しながら問題を解決する能力**）を身に付けさせることが非常に大切になってきているといえます。

しかし、若者が置かれている離職の現状を考えると、それだけでは十分でないように思われます。というのも、前述の調査結果の離職理由にある「自分の希望と仕事内容のミスマッチ」、「上司や同僚との人間関係に関するストレス」といった点に着目すると、子どもたちが一定の耐性や我慢する力を身に付けているか、といったことも問題にする必要があるからです。

つまり、いかに優れた学力や人間性を有していたとしても、それだけで自己実現が果たせるわけではなく、不本意なことが多いけれども「続ける力」や、分からないこと・できないことに「耐える力」を育てていくことも大きな意味を持っているのではないかと思います。

『バカの壁』の作者として著名な養老孟司先生は、その続編の『超バカの壁』の中で仕事を続けていくことに関して次のように述べています。

「二十歳やそこらで自分なんかわかるはずがありません。中身は空っぽなのです。・・・(中略)・・・仕事は自分に合ってなくて当たり前です。私は長年解剖をやっていました。その頃の仕事には、死体を引き取り、研究室で解剖し、それをお骨にして遺族に返すまで全部含まれています。そのどことが私に合った仕事なのでしょうか。・・・(中略)・・・合うとか合わないとかいうよりも大切なのは、いったん引き受けたら半端仕事をしてはいけないということです。一から十までやらなくてはならない。それをやっていくうちに自分が変わっていく。自分自身が育っていく。」



また、東京大学で教授として経済学を教えている**げんだゆうじ** 玄田有史先生は、中学生や高校生に講演をする時に、よく次のような話をされているそうです。

「人生きつと大きな壁にぶつかる。しかし、壁を乗り越えようとしなくていいよ。壁にぶつかったら、壁の前でちゃんとウロウロしていることが大事。そうこうしているうちに、壁の小さな穴が見つかるかもしれないし、壁が崩れるかもしれない。ウロウロしていることと、分からんということに慣れること、逃げ出さない体を中学生のうちにつくっておくこと、これが大事。」



いずれも示唆に富む話ですが、人生という道のりや仕事という世界をどうやって生きていけばよいのか、一つの答えが指し示されているように思います。同時に不本意なことが多くても「続ける力」や、分からないこと・できないことに「耐える力」の大切さも十分に伝わってくるのではないのでしょうか。

では、どのようにして子どもたちにこのような力を育てていけばよいのでしょうか。これらの力は、当然、前号の学校だよりの中で取り上げた「自己肯定感」などとは違う原理で育てられるべきものではないかと考えています。その方法等については、紙幅の関係で、次号以降に機会を見つけて取り上げてみたいと思います。

## 第72回幼小中校区合同運動会 9/26

コロナ禍で昨年よりも規模を縮小し、午前中開催となった運動会でしたが、生徒全員が一生懸命に力を発揮し、見ている人たちを感動させてくれました。

長距離走では新記録が2人出ました。短い練習期間でしたが、小・中学校の団員一体となった応援合戦は、気迫が伝わり会場から惜しめない拍手が送られました。

地域からプレゼントして頂いたバルーンアーチと最後のバルーンリリースなど、思い出深い素晴らしい運動会になりました。



## 生徒会立会演説会・選挙 10/6

新しい生徒会長を決めるための立会演説会・選挙が10月6日に行われました。1・2年生7人が立候補し、自分が進めていきたい生徒会活動についての考えを発表しました。選挙の結果、2年生の宮下瑠衣さんが新しい会長に決まりました。その後新会長が専門部長・副部長を委嘱して、新しい生徒会が10月12日の生徒集会で発足しました。

良き伝統を引き継ぎ、さらに新たなことにも挑戦する生徒会になっていくことを期待しています。

また、これまで生徒会を引っ張ってきた3年生は、本当にお疲れ様でした。会長の尾堂里玖さんを中心に、学校全体のために大きな貢献をしてくださいました。これからも後輩の良き相談役となってください。



## 地区新人総体 10/13・14

今回の新人総体に向けて、7月の地区総体での悔しさをバネに、一生懸命練習に打ち込んできました。

個人戦で2回戦進出をしたり、ベスト8入りを果たしたりと予想を上回る結果を残すことができました。今回の経験を通して自信をつけるとともに、更に努力が必要な面も理解できたと思います。今後の活動に生かし、更に飛躍できることを期待しています。

【結果】男子ソフトテニス	団体戦	1勝2敗で決勝トーナメント出場できず
	個人戦	1年大山・山田ペア ベスト8進出 2年松元・橋口(伊集院中)ペア2回戦進出
女子ソフトテニス	団体戦	2勝したが、オープン参加のため決勝トーナメント出場できず
	個人戦	1年馬場園・満留(吹上中)ペア, 2年林・宮下ペア ベスト8進出

日	曜	11月の主な行事予定
1	月	地域が育む「かごしまの教育」県民週間(～7日) 「学校を見に行こう」週間(～5日) 文化祭(含む「ふれあいの杜」完成式典) おひさまあいさつの日
3	水	(祝)文化の日
8	月	3年生実力テスト
9	火	第4回PTA評議員会
10	水	教育相談 巡回図書
11	木	緑化活動
12	金	巡回図書
13	土	土曜授業(小中合同地域ふれあい活動)
17	水	スクールカウンセラー来校
19	金	授業参観 第2回学校保健委員会 学級PTA テスト前部活動停止
23	火	(祝)勤労感謝の日
24	水	期末テスト(～26日)
30	火	巡回図書

※11月1日からの県民週間は、是非学校にお越しください。  
(詳細は各自治会公民館に掲示したポスターを御覧ください。)

## 第2国土橋地区学校運営協議会の報告

【日時】令和3年10月12日(火)14:15～16:40

【場所】土橋中学校

【出席者】小中学校長・教頭、学校運営協議会委員13名

【協議内容等】

授業参観の後、中学校多目的室にて小・中それぞれの学校の令和3年度の運営状況や令和4年度の経営方針について説明がなされ、協議をしていただきました。次の通り多様な意見や質問が出され、活発な意見の交流がなされました。

- ① 学校評価の結果について
- ② ホームページの更新、オンライン授業等について
- ③ 特認校や区域外就学の状況等について
- ④ 自己肯定感を高める取組について
- ⑤ フィルタリング等について

議事録が必要な場合は、中学校教頭の方に連絡を頂ければ幸いです。(273-9230)